

5月26日 ヨハネによる福音書14章8～17節

「真理の霊」

本日は、週報に書いてありますように、三位一体主日という礼拝を守っています。私たちが信じる神様は三つであり一つであるという、複雑な在り方をしています。父なる神として天地創造の神様がいて、子なる神として私たちの主であるイエス・キリストがいて、そして霊なる神として天から降る聖霊がいる。その全てが同じく神であり、全てが違う存在・位格として存在するという信仰を私たちは持っているのです。

そのような神様の在り方をうまく理解できない気持ちもよくわかります。なんせ、私たちは神様のことを目で見ることが出来ません。三位一体という概念を、目を見て理解することが出来ない以上、私たちが理解しにくいのは仕方がないことなのです。今日の聖書箇所でも、神様のことを見たことがないフィリポが、「神様のことを見たい」と言って、イエス様に呆れられている様子が示されています。

弟子たちはイエス様からどれだけ神様についての話を聞いても、どれだけ神様の奇跡を目の前にしても、「自分の目でまだ見ていない」という思いをぬぐい去ることができませんでした。そのフィリポに対してイエス様は、「自分が三位一体における子なる神であり、父なる神と同じく神であることを理解することによって、父なる神のことをよく知ることが出来る」と語ります。イエス様が人々に語った言葉はすべて神様の御心のままに語ったものであり、つまり「父なる神様の言葉」と言い換えてもいい言葉でありました。だからこそ、イエス様の言葉を信じることは神様を信じることにつながり、イエス様のことをよく知ることが、神様のことをよく知ることが意味しているのです。

そしてそれは同じように、イエス様を知ることが聖霊のことを知ることにつながることをも意味しています。今日の箇所ではイエス様は、神様から遣わされる「弁護者」であり「真理の霊」、つまり「聖霊」について語っています。ただイエス様が神様にお願いをして、その事によって真理の霊が、聖霊が弟子たちのもとに遣わされることになります。そして、聖霊を受け入れるためには、霊のことを知る必要があります。私たちは神様のことを、イエス様を知ることによって、聖霊を知り・受け入れることが出来るようになり、私たちの中に聖霊がとどまることになるのです。

そして、私たちが祈りの中で「神様が共にいてくれている」「イエス様と共に人生を歩んでいる」と祈るその言葉を実現するのが、真理の霊であり弁護者である、聖霊によって実現される神様の「遍在」という在り方なのです。イエス様は、神様は、私たちと共に生きてくださる方です。そのような在り方を「神様が偏在する＝いつでもどこにでもいることが出来る」と表現します。インマヌエル（神は私たちと共にいます）という言葉に示されているように、私たちは聖霊の在り方によって、神様と共にどんな時も生きることが出来るのです。

私たちは、イエス様の言葉によって、聖霊のことを知り、信仰へと導かれています。私たちのこの信仰歩みが「正しい」と教えられていて、堂々と生きていいと背中を押されているのです。その力強さを感じながら、今週一週間の歩みを、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：ヨハネによる福音書 14 章 8～17 節

- 8:フィリポが「主よ、わたしたちに御父をお示してください。そうすれば満足できます」と言うと、イエスは言われた。「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっているのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、『わたしたちに御父をお示してください』と言うのか。わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じていないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられるのである。わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい。はっきり言うておく。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。わたしが父のもとへ行くからである。わたしの名によって願うことは、何でもかなえてあげよう。こうして、父は子によって栄光をお受けになる。わたしの名によってわたしに何かを願うならば、わたしがかなえてあげよう。」
- 「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにして下さる。この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。」